

各位

上場会社名	株式会社 テイン
代表者	代表取締役社長 市野 諒
(コード番号)	7217)
問合せ先責任者	取締役 那須 賢司
(TEL)	045-810-5511)

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,397	88	87	67	12.45
今回発表予想(B)	2,998	△6	△19	△18	△3.48
増減額(B-A)	△399	△95	△106	△85	
増減率(%)	△11.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	3,083	△38	△33	△224	△41.28

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,073	△20	△36	△37	△7.05
今回発表予想(B)	2,753	△12	△22	△21	△3.97
増減額(B-A)	△319	8	13	16	
増減率(%)	△10.4	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	2,615	△160	△149	△329	△60.53

修正の理由

<連結>

今後の国内外の経済情勢につきましては、欧州における金融不安の緩和が観測され、また各国通貨安競争の様相に対してG20において誘導回避で一応の合意が見られましたが、世界的な景気の回復にはまだ時間を要することが予想されます。

当社の属するカーアフターマーケットは、自動車メーカーへ納入する部品市場とは異なり、新車販売動向に左右されにくい反面、長引く雇用や所得への不安などが消費マインドを萎縮させ、特に比較的高額な商品は消費動向の影響を直接的に受けやすいという側面があります。現状においては需要の回復に遅れが生じており、また回復の目処が予測しにくい状況でもあります。こういった状況の改善にはなお一定の期間を要することが考えられ、さらにはデフレ傾向による価格競争の激化なども想定されます。

当社グループにおきましては、ボリュームゾーンへの新製品投入を来春に予定するなど業績改善に向けた取り組みをおこなってまいります。当期における効果は限定的と考えられること、また前述のように需要の回復が予測しにくい当面厳しい状況での推移が予想されることなどを勘案した結果、通期の売上高については前回公表した計画を下回る見通しとなりました。

また損益につきましては、このような経営環境の中、徹底した固定費や経費の削減、また生産体制の改革などを鋭意推進いたしておりますものの、前述の売上高の減少に伴う売上総利益の減少を補うまでには至らないため、営業利益、経常利益、当期純利益が計画に対して下回る見通しとなりました。

以上により、通期の連結業績予想数値を上表のとおり修正いたします。

<個別>

個別の業績予想につきましては、売上高は前述の状況と同様になりますが、損益面では固定費や変動費の削減が奏功したことにより、上表のとおり修正いたします。

● 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成22年5月14日発表)	—	0.00	—	1.87	1.87
今回修正予想	—	—	—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00	—		
前期(平成22年3月期)実績	—	0.00	—	0.59	0.59

修正の理由

当社の1株当たり期末配当金については、配当の安定性を図るため、配当性向の基準を当期連結当期純利益の15%相当額と前期連結当期純利益の15%相当額との合計としております。

業績予想の修正で記載いたしました理由により、売上高および損益予想について当初の予想を下回る見込みとなり、同様の理由から個別の業績予想につきましても修正いたしました。

期末配当金については前述のとおり連結ベースの業績に連動しており、また前期の業績が当期純損失であったことから、当業績予想の修正に伴ない上表のとおり修正いたします。

以 上